記者発表資料

平成２２年　８月３１日
国土交通省　青森河川国道事務所

馬淵川水辺の楽校「コモチカワツボ」対策検討会の開催

～順応的な河川管理を目指し、関係者の皆様と応急対策について意見交換～

馬淵川水辺の楽校（国道104号大橋下流右岸）のせせらぎ水路内において、外来種**「コモチカワツボ」**の大量生息が確認されております。

コモチカワツボは、カワニナの稚貝によく似ており、これを**餌として育ったホタルは、成育が悪く、光も弱くなり、繁殖に支障をきたす**といわれています。また、高い繁殖力を持つため、川遊びで使ったバケツ、履物などに付着して他の川や池に運ばれることにより拡散する可能性が高く、**その生息分布域の拡大は、生態系へ悪影響を及ぼす恐れ**があります。

青森河川国道事務所では現在、人為的な分布の拡大防止のため、**せせらぎ水路内への立ち入り、生物採取、水草等の持ち出しの制限**を行っています。

馬淵川水辺の楽校は、環境教育や水辺に親しむ場として幅広く利用されていることから、今後の応急的な対策を検討するため、関係者の皆様と下記のとおり意見交換を行いますので、お知らせします。

記

■ 日　　時 ： 平成２２年９月２日（木）１５：００～１７：００
■ 場　　所 ： 八戸市立上長公民館　会議室
　　八戸市一番町一丁目４－１
■ 内　　容 ： （１）対策検討会の開催について
　　（２）これまでの経緯、生息分布調査結果について
　　（３）応急的対策案の検討について
　　（４）意見交換
■ メンバー ： 【別表－１】検討会名簿参照
■ 公　　開 ： 青森河川国道事務所長挨拶の冒頭までとなりますので、予めご了承下さい。

記者発表先：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　青森河川国道事務所
住所：青森市中央三丁目２０－３８
電話：０１７－７３４－４５２１（代表）
副所長（河川）　荒木（あらき）　勝彦（かつひこ）（内線２０４）
調査第一課長　　福田（ふくだ）　修（おさむ）（内線３５１）

【別表－1】

馬淵川水辺の楽校「コモチカワツボ」対策検討会名簿

機関名	職　名	氏　名	備　考
八戸工業大学　大学院	工学研究科　教授	佐々木　幹夫	馬淵川水系河川整備学識者懇談会委員
東北医療福祉事業協同組合	次長	木村　和年	馬淵川水辺の国勢調査アドバイザー
弘前大学	教育学部　教授	大高　明史	岩木川水辺の国勢調査アドバイザー
八戸野鳥の会	副会長	関下　斉	河川環境保全モニター
NPO法人水辺の楽校まべち	理事長	池田　光則	
東北地方整備局	河川環境課長	宮﨑　伸一郎	
青森河川国道事務所	事務所長	久保田　一	
	副所長（河川）	荒木　勝彦	
	調査第一課長	福田　修	
	河川管理課長	齋藤　義己	
	八戸出張所長	細田　文一	
八戸市	環境政策課長	成田　忠義	
㈱建設環境研究所	仙台技術部長	酒巻　一修	H22馬淵川水辺の国勢調査管理技術者

■「コモチカワツボ」とは・・・

【参考資料ー1】

【分布・形態】
- 大きさ4～5mm程度の小さな巻き貝で、在来のカワニナの稚貝と似ています。
- ニュージーランド原産の外来種で、日本では東北から近畿、九州の一部で確認で確認されています。



【生息環境】
- 湧き水のまわり、水草や糸状の藻類が多い場所に生息しています。

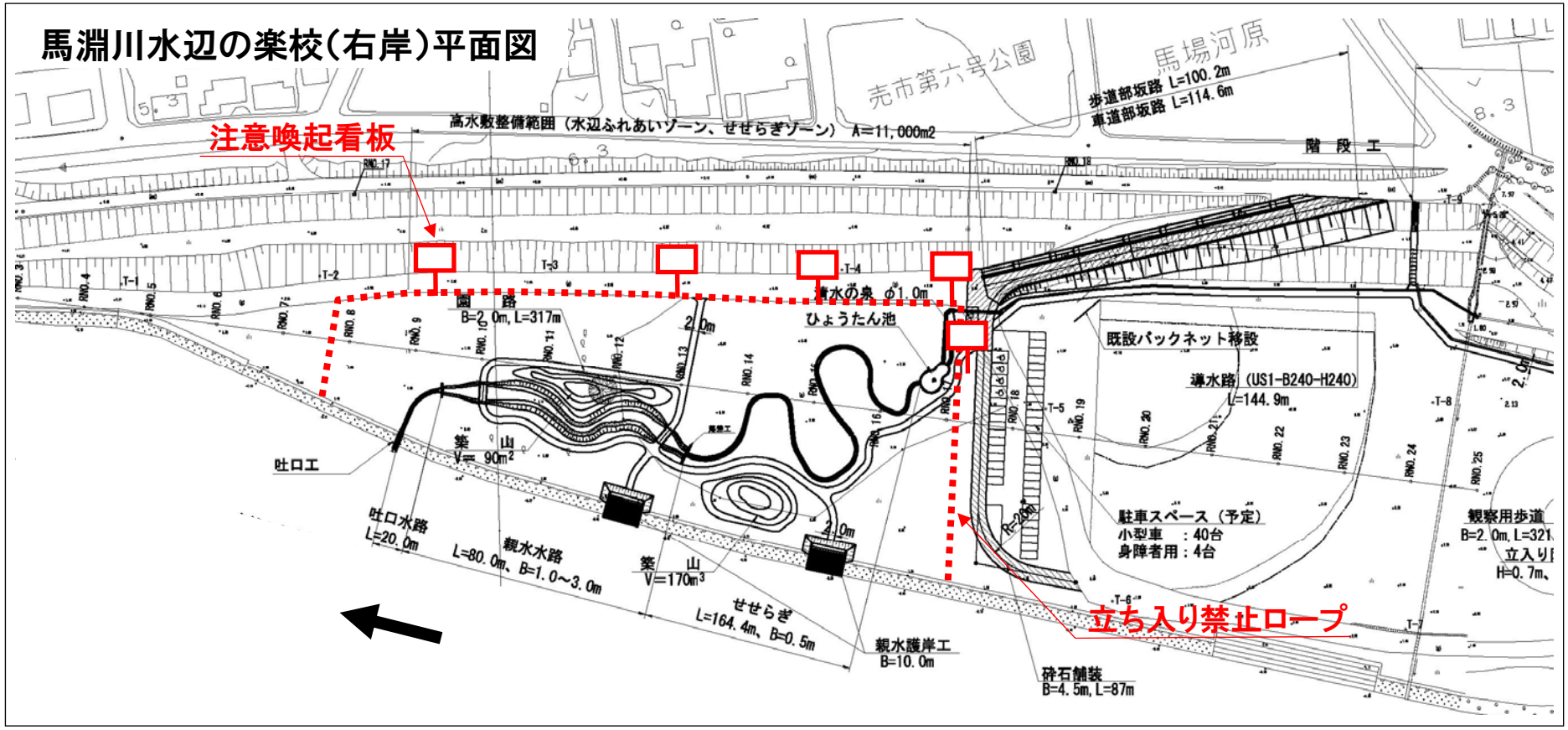
【繁殖生態】
- 高い繁殖力を持ち、無性生殖を行うため1匹でも増えます。

【生態系への影響】
- 藻類を食べるため、同様に藻類を食べる魚や水生昆虫への影響が懸念されます。
- カワニナによく似ていますが、これを餌として育ったホタルは、成育が悪く、光も弱くなり、繁殖に支障をきたすといわれています。

■青森河川国道事務所における「これまでの対応」

【参考資料―2】

・青森河川国道事務所では、7月17日（土）に以下の対策を実施しています。





立ち入り禁止ロープ



注意喚起看板



水路の干上げ



生息分布調査

■「コモチカワツボ」生息分布調査結果

【参考資料―3】

■調査日　・平成22年 7月17日(土)

■調査地点　・水辺の楽校周辺(JR橋梁～大橋)
・過年度調査確認地点(新大橋左岸付近、尻内橋上流付近)

■調査内容　・水辺の楽校(右岸)せせらぎ水路:タモ網による30×30cmの定量的採集(計8地点)
・その他の箇所　:目視およびタモ網捕獲

